

## 目次

挨拶(副会長)大槻剛巳先生(6期).....	2
川崎医科大学同窓会会長、監事改選に関する告示.....	4
1. 30周年記念事業海外留学助成報告 久米輝善先生(24期) 與田茂利先生(27期).....	5
2. 30周年記念事業海外留学助成応募について(平成23年).....	9
3. 教授就任挨拶.....	10
【同窓生】 獨協医科大学皮膚科学主任教授 旗持 淳先生(3期)	
【川大】 麻酔・集中治療医学3 片山 浩先生	
放射線医学(画像診断2) 三村 秀文先生	
総合内科学4 滝川奈義夫先生	
総合内科学2特任 山田剛太郎先生	
自然科学 虫明 基先生	
准教授就任挨拶	
【同窓生】 川崎医科大学附属川崎病院 総合外科学准教授 森田 一郎先生(10期)	
川崎医科大学附属川崎病院 総合内科学1 宮下 修行先生(14期)	
4. 母校の近況.....	21
附属病院長挨拶と外来診療表	
川崎医科大学附属川崎病院について	
東北関東大震災について・義援金拠出者名簿・義援金お礼・東北関東大震災ボランティア報告	
5. 支部便り.....	36
奈良県支部、兵庫県支部、岡山備前支部、広島県支部、広島県備後支部、福岡県支部、一期会、川崎医大支部	
6. 同窓生の近況.....	41
(ア)受賞者報告 佐藤友美先生(16期)、山本 亮先生(22期)	
長洲 一先生(28期)	
(イ)研修医リレー日記 宮地啓子先生(35期)	
(ウ)平成22年度学位取得者一覧	
(エ)科研費取得一覧	
(オ)病院紹介 草加勝康先生(6期)、森 崇文先生(17期)、平田範夫先生(18期)	
7. 会員の声.....	51
平田壽雄先生(3期)、平野一宏先生(7期)	
8. 学生の声.....	58
4年生 杉原桃子さん	
9. シリーズ「医療・医学への最前線」.....	59
荻田聡子(16期)、関 聰介先生(24期)	
10. 教室紹介 リウマチ・膠原病学教室 作田建夫先生(24期).....	62
11. クラブ紹介 水泳部 松村浩平先生(36期).....	63
12. 平成23年度入学者名簿.....	64
13. 平成22年度事業報告・平成23年度事業計画.....	65
14. 平成22年度決算・平成23年度予算.....	68
15. 平成23年度第一回代議員会議事録.....	70
16. 平成23年度代議員名簿・第二回代議員会の日程.....	73
17. 訃報.....	74
18. 会費未納の会員の皆様へのお願い.....	74
19. 会則・選挙規定細則.....	75
20. 編集後記 安永 雅先生(34期).....	80

◎住所変更等は同窓会にもご一報下さい。

〒701-0192 倉敷市松島577 川崎医科大学同窓会

TEL086-463-6580 FAX086-463-6581 E-mail:dousou@med.kawasaki-m.ac.jp

◎会報への投稿を募集します。

同窓会では、支部便りのほかにも、会員の近況(シンポジウムや国際学会での発表、開業挨拶など)また、同窓会へのご意見など、会員の皆様からのご寄稿をお待ち申しあげております。なお、採用につきましては会報編集委員会に御一任下さい。



## 会員の皆様、いかがお過ごしでしょうか？

副会長 大槻 剛巳（6期）

東日本大震災と大津波、さらに福島第一原発の事故とそれに続く補放射能汚染の問題だけでも、我が国自体が、大きな命題を突き付けられている様に感じますが、輪をかける様に政治は混乱の極みという状況で、嘆くべきなのか、あるいはそれでも議院内閣制の中で、国会議員を選んだのも国民一人ひとり・・・投票率があまり高くないにしても、それを承知で投票に行かないとすると・・・の責任でもあるのかも知れません。

同窓生の方の中には、まさに震災被害の渦中から、まだまだ復興に時間のかかる現状で、それでも精一杯、努力なさっていらっしゃる先生も多いと聞いております。「がんばろう日本」は、それでもお互いに、気持ちをひとつにして、という祈りを込めての言葉と感じております。遠い倉敷で働いておりますが、想いは東北に、といつも嘯み締めております。みんなが想いを東北に寄せることで、それでも何か「気」のパワー（オカルトではないですが）のような渦が被災地を支えることも出来ないのだろうかと思っ、そして、実は今年3月まで地元岡山のRS山陽放送AMラジオで若者たちがやっているバラエティー番組でコーナーを持っていた時に、土曜夜の放送で、3月12日は、とにかくまだ情報が錯綜していて、それでも出演者一同がそれぞれに被災地への想いを寄せるメッセージを語りました。そして、状況がいくつか分かってきた翌週19日には、リスナーの皆様のメッセージを伝えるとともに、私は自分のコーナーで「復興支援オリジナルソング」をギターで弾き語りをしました。その後、種々の用事で倉敷を離れることもならないままに、フルバージョンを作っ、それでもアクセスして下さる方の想いが東北に向かう切掛になれば、と、YouTubeにアップしました。YouTubeで私の名前で検索してみてください。あるいはGoogleなどで私の名前で動画検索をしてみてくださいましたら、ヒットします。想いを東北に！ という3月17日の楽曲で「3.11その後」です。

大学は、震災の後にもいくつかの難題を突き付けられました。国家試験の成績が甚だ芳しくなく、全体で79番（80校）、新卒では80番という状況でした。同窓会では副会長も努めさせていただいておりますが、大学の役職にも付いている者として、深くお詫び申し上げます。この結果を受けて、緊急の大学運営委員会、教授会などが開かれました。成績の調査、あるいは卒業試験日程などの見直し、小グループ制度の中での肌理細かな対応などの方策が建てられて実践されました。原因を教員の怠慢と指摘されれば、反論する言葉もありません。良医を目指す問題解決能力や思考についての素地を伸ばすこと、更には試験で確実に点数を取れる知識も蓄積させること、加えて、教育全体に対して怯えてビクビクしながら評価を待つのではなく、おおらかにのびのびと学習する姿勢も身につけてほしいのですが、なかなか、教育の全体像として授業などに関わる300人弱の教員、さらには助教、臨床助教といった教員も実習などで関わってきます。そういった教育体制に入っている教員たちの意識と手法をブラッシュアップしていくことも、なかなかどうして、大変なことなのかも知れません。ただ、いくら言葉を紡いでも、それは言い訳でしかないのでしょう。本学の教育の姿勢、方針については、教務担当副学長でいらっしゃる砂田教授（神経内科）や福永学長が、教授会やFD会などで事ある度に、対象教員に対して述べられていらっしゃると感じております。教員一人ひとりが、それを真摯に受け止め、それぞれの担当の時間の中でどのように昇華していくべきなのか、ということを実際に考えていくしかないのかも知れません。現在、衛生学領域で働いておりますが、同業の先生でお嬢様が今春、本学を卒業された方がいらっしゃいます。その先生が「川崎は試験に対して学生に怯えを植えつけている」といった主旨のことを、別件でのメールのやりとりの余談で話してくださいました。たしかに、ビビっているのは実力は出せないのかも知れません。いい意味での緊張感が必要ですが、過度の不安や怯えは、試験に際しても実力を発揮させきれずに、困惑させてしまう源になってしまうのかも知れません。反省をし、少なくとも、

---

それに基づいて自分の与えられている教育の中で、改善を目指して行きたいと思ったりしております。

さらにその後、今度は現役学生が覚醒剤所持容疑で逮捕されました。これもまた大学の役職に付いている者として、心よりお詫び申し上げます。当該学生は8月に退学となりましたが、それでも学生の中にこのような事件にたどり着いてしまう気持ちの揺れをもっていた者が居たという事実だけでも、何かを考えないとならないのだろうとは思いますが。数年前から、全学生を対象に（休んだ学生には、録画したものを全員が閲覧するまでその機会を与えるという姿勢で）覚醒剤などの危険性を注意する講演会を、専門職の方を招いて実施していた矢先でしたので、大学も驚愕してしまいました。一般的にストレスの多い社会と言われておりますが、それは学生さんでも同様で、なかなか本業に真摯に向き合っている、どこかで自分の気持ちとろんな評価や周囲とのすれ違いなどで、心の余裕が失われた時に、遊び心も含めて何に救いや逃げ場を求めていくのか、そのひとつの現れとして、こういった事象につながったようなことがあるのかも知れません。個人的に、さて、どういった解決策も見つけきれないままに時だけが過ぎていっていることに忸怩たる想いもありますが、事象を多角的に捉えながら思考を深めていきたく考えております。

副会長の挨拶の欄なのですが、大学に所属している立場上、こういったことに触れざるを得ず、辛い文章になってしまいました。

そうそう、年度内とはいえ、来年のことなのですが、2012年1月27-28日に倉敷市民会館大会議室で第11回分子予防環境医学研究会を主催致します。例年100名余が集まる小さな研究会ですが、衛生学・公衆衛生学・健康科学・予防医学と呼ばれる領域の中で、最先端の分子生物学なども踏まえた研究に邁進されていらっしゃる精鋭たちが集まる研究会で、我々の教室もずっと学習を兼ねて皆で参加してきた会なのですが、今回、会長を仰せつかりました。IL-8を見つけた現在東大の松島教授やRbを見つけた京都府立医大の酒井教授などが中心メンバーで、いやはや・・・主催者として、参加される皆様に満足していただける会にしないとないと、気持ちを引き締めております。といつつ、きっと懇親会では、今回の研究会のオリジナル主題歌などを歌ったりするのも知れませんが・・・(\*^\_^\*)

6～7月に岡山県立美術館で、横尾忠則展がありました。横尾忠則氏といえば、僕らの世代では、サンタナの「ロータスの伝説」や、マイルス・デイビスの「パンゲア」「アガルタ」のジャケットのイラストで、本当にポップスターでした。さらに今回は、美術館内のアトリウムで、公開制作をされるということで、観に行ってきました。そして、キャンパスの絵の具が乾く間の、聴衆とのやりとりや質問にお答えになっている中で、美術としての芸術の根底にあるもの、あるいは対峙するべき姿勢についてお話になられている時に、個人的には、音楽や文学などのアートとの比較や、やはりそういったものを制作するという、ひいては、ある医科学の中で興味あること、解明されていない何かに気付いて、それに対して研究計画の企画し、手を動かして（あるいは最近では、若い教室員にしてもらっていますが）、結果を出して考察して論文を書いて、それを評価してもらおう、という作業について、その相違点などについて想いを馳せたものでした。

観測史上初という言葉が、毎年のようになんらかの気象に関連する現象で報道されるってことは、やはり地球環境自体の変化が大きくなってきているのでしょうか。エネルギーや電力についても考えないとなりませんし、暑さ寒さに耐えられる体力づくりが一番でしょうか！

同窓生の皆様、それでも元気に日々をお過ごしください。また岡山県内には、井原市の田中美術館とか高梁市の成羽美術館など、結構、良質のミュージアムが沢山あります。母校に寄られるついでに、そんなアート巡りもどうでしょうか？